



成果指標				
成果指標	調査員による訪問調査の一次判定と医師意見書及び審査会での二次判定を行った審査件数の推移			
指標設定の考え方	一次判定結果が審査会にて協議され、適正に判定されたかどうかを指標とする。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標28年度
目標	100	100	100	100
実績	92	78	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	調査員が2名交替勤務から1名へと1名フルタイム勤務へと変更となった。今のところ、調査に支障はないが、今後審査件数の増加も見込まれることから、交替要員の確保が必要となる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	今年度からこの事業が一般財源化され、事務の効率化と効果が求められるようになった。審査会運営では、区分認定だけではなく、困難事例の情報共有化、継続した案件の追跡など機能強化を図っている。また、審査会事務局として、職員の質の向上のため、各種研修会や相談員連絡会に参加を促し、社会保障制度の理解やサービスの支給決定に必要な知識の取得に努めた。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題